多文化共生社会をたくましく生きる子供の育成
－自分や地域のよさを実感できる、地域の人々とのふれあいを通して－

知立市立知立東小学校

１　実践のねらい

本校は、外国人が集住する知立団地の中にある学校であり、ブラジル、フィリピン、ペルー、ベトナムなど１０か国以上の多様なルーツをもつ児童が共に学んでいる。そのため、本校では教育活動全般で日本語指導を行っている。また、国語や算数でグループ別指導をするなどきめ細かな指導や支援ができるように工夫している。しかし、外国にルーツのある児童の家庭の背景は一人一人異なり、親の都合で転校を繰り返し、将来の見通しがもてず、学習に意欲的に取り組むことの難しい児童がいたり、生活することに精一杯で子供に手をかけられない保護者がいたりする現状である。

このような状況において、保護者を含めた地域の力を結集することが、本校で学ぶすべての児童がこれからの社会をたくましく生き、豊かな人生を歩む手助けになるのではと考えた。さらに、今年度本校にコミュニティ・スクールが発足することから、より多くの地域の方々と連携することを通して、多文化共生社会をたくましく生きる児童を育てたいと考えた。

２　実践の内容

(1)　地域の方々と行う学校行事

①　東っ子大運動会　　～地域種目（じゃんけん列車、ジェンカ）の実施～

本校は、毎年度５月に運動会を学区町内会、団地自治会と共催で開催している。今年度は、プログラムに地域種目として、じゃんけん列車とジェンカを取り入れた。指揮者は、コミュニティ・スクールの地域コーディネーターにお願いした。地域コーディネーターは、日本国籍の方とブラジル国籍の方で、参加者への指示は日本語とポルトガル語で行った。そのおかげで参加者が迷うことなく行動できた。じゃんけん列車では、子供、大人、国籍や年齢に関係なくじゃんけんすることで、様々な人が入り混ざった列車ができた。まさしく本校の特色が表れた一場面である。

保護者や地域の方と行ったじゃんけん列車

②　東っ子カーニバル　　～地域の方や保護者が講師になって行う体験講座～

毎年、地域の方や保護者が体験講座の講師となり、日本の文化にふれ、理解を深めるために、全校行事として「東っ子カーニバル」を行っている。全校児童が着物やお抹茶、おこしものづくりなどの日本文化を体験する貴重な機会となっている。

地域の老人会の方には、昔の遊びである「こま」や「かるた」を教えていただいて楽しむことができた。「かるた」は、ルールが分かりやすく、日本語の勉強にもなり、児童は楽しんで取り組んでいた。老人会の方たちは、毎年本校に来ることを楽しみしてくださり、中には本校のスクールガードとして、日々児童を見守っていただいている方もいる。

昔の遊び　～かるたとり～

「東っ子カーニバル」は、児童にとっても、地域の方たちにとっても楽しみにしている行事の一つである。児童は体験を通して日本の文化を学ぶだけでなく、地域の方とのふれあいを通して、顔の見える関係を築き、家族以外にも頼りになる大人がいることを知ることができる。そのことが安心して地域で生活することにつながり、地域の一員としての自覚が芽生えていくと考える。更に地域の方は、講師として体験講座を行うことで、日本人、外国人問わず、児童みんなが元気に楽しく過ごしている学校の様子を知ることができる。こうした機会を大切にしていくことで、地域と学校が力を合わせて児童を育てていこうとする協力体制の醸成につながっていくと考えている。

(2)　地域の方とつくる学校環境　　～おやじの会主催　壁アート～

おやじの会主催で運動場に面する壁にステンシルアートを行った。このステンシルアートは、おやじの会がデザインの勉強をしている本校卒業生に協力を依頼し、実現したものである。おやじの会の呼びかけで本校の保護者や児童に加え、地域の方も含めて約３０名が集まった。卒業生がデザインした型紙を切り抜き、その切り抜きを使ってみんなで壁にステンシルアートを作成した。長さ８０mほどの壁に本校のキャラクターである「ヒガッシー」が様々な色になり、壁をにぎやかに彩った。灰色だった壁が色鮮やかな「ヒガッシー」によって、国籍豊かな本校の特徴と重なり、多文化共生の象徴にもなると感じた。おやじの会を中心とした学校環境整備は、本校の児童を大切に思う保護者や地域の方々の協力があって行うことのできるものである。このような活動を通して児童が多くの方に見守られて生活していることを実感できると考えている。

みんなで力を合わせて完成！　壁アート！！

(3)　地域の方から学ぶキャリア教育　　～キャリア教育講演会「未来に羽ばたく東っ子」～

子供たちが本校の卒業生から知立東小学校で学んだことや今力を入れていることを聞くことで、自分の将来に夢や希望をもち、これからの学校生活の糧としてほしい。また、地域で子育て支援をしている方の話を聞くことで、様々な方の支えや協力のおかげで成長できていることに気付き、互いを認め合い、助け合いながら生活してほしいと考えた。そこで、本校の日本人と外国人の卒業生、そして本市の早期適応教室の指導員をしつつ、本校の学区で子育て支援をされている方の計３名を講師として、キャリア教育講演会を行った。

日本人の卒業生からは、「自分のやりたいことを大切にしてほしい」、外国人の卒業生からは、「自分が外国人だからといって、自分で壁をつくらないでほしい。みんなには可能性があるからあきらめず、自分で自らの未来を築いてほしい」との話があり、子供たちはうなずきながら真剣に聞いていた。そして、早期適応教室の指導員からは、日本と外国との懸け橋になろうと努力していることや地域の方々が地域のイベントなどを通して、みんなの成長を支え、応援してくれていることなどを話していただいた。

将来の夢を語る本校児童

子供の感想を読むと、「自分の夢をあきらめることなく、自分はできると信じ、なりたい自分を目指してがんばりたい」「今、こうやって外国の子と話したり、友達でいられたりすることは、とてもすごいことだと思った」と夢に向かって努力することの大切さや外国人と一緒に生活することで互いの国の文化やよさについて理解することができたようである。このように多文化理解を通して、互いを尊重する土壌が本校にはあると感じている。

３　実践の成果や課題

・子供たちが地域の方とのふれあいを通して、自分が大切にされていると感じ、自分にも周りの仲間にもよさがあり、互いを認め合う雰囲気が高まった。
・地域の方や保護者が本校の取り組みを理解し、子供たちを学校とともに育てていこうとする体制が整いつつある。